

## ◇『大坂なおみの質問に質問で返す』 (株)毎日放送 顧問 木田洋一

テニス全米オープンで二度目の優勝した大坂なおみ選手は試合での活躍とともに、人種差別に抗議するマスクが話題となりました。優勝インタビューで、インタビュアーが「7つのマスクで伝えたかったメッセージはなに？」と、連日名前入りのマスクを着用した大坂に質問すると、彼女は「What was the message that you got was more the question. I feel like the point is to make people start talking. (じゃああなたが受け取ったのはどんなメッセージだったの?)」と逆質問して、(私は、みんながこのことについて話をはじめてくれたらいい)と答えました。私個人は、すごく賢くて、思いをもった女性だと感心しました。世間やメディアで好意的なところが多かったですが、スポーツに政治を持ち込むなという意見もありました。

今回お伝えしたいことは、差別の問題ではなく「質問に質問で返す」ということです。私はチャレンジングだと思いました。記者会見でも、時々質問に「あなただったらどうなんですか」と質問で返すことがありますが、これは大抵好い結果をもたらしません。会見対応のタブーのようになっています。

偉そうに質問するけどあなたはどうなんだ、現実には甘くないと言いたくなる気持ちはわかります。しかし「言い返している」と見えます。なぜいい結果が生まれないのか考えると、ひとつはマネジメントのノウハウとして、ある上司が部下に相談されたときに、「君はどう思うんだ？」と返して答えを部下に考えさせるというのがあります。

つまり、上から目線に質問を扱っているように見えるからではないでしょうか。

もうひとつは、そんなこと言えた立場かということで、多くのリスクを抱えた対応だと思います。

大坂選手の場合は、「スポーツに政治を持ち込むな」という考え方に加え、この差別反対運動についての賛否もある、膨大な金額を払ってくれているスポンサーの受け取り方というリスクもある中、あえて主張した訳です。

彼女の人柄や答え方についての好感もありますが、それが逆に作用することもあります。たぶん、彼女はそんな計算をしていないと思いますが、今までの世間のタブーから「今」の世間の流れの変化があったと思います。広報は、常にそうした世間を読み解いていくことが一番大事な仕事だと思います。

## ◇『DXのネタを温めよう！』 日本一明るい経済新聞編集長 竹原信夫

菅首相誕生して、社会の空気感も少し変わって来たようです。今まではコロナコロナで、なんでもコロナが一番の関心事。メディアもそれに乗って、毎日コロナ報道に明け暮れていました。

コロナ禍の中で、コロナが絡めば全てがニュース。コロナで儲かっている会社、損している会社。どちらもニュースです。でも、取り上げられた会社は、どちらも嫌々受けたと思いますよ。

メディアの取材はなんでも受けるべきではありません。その取材の狙いや主旨をしっかりと確認、理解して受けましょう。嫌なら断るべき。NHKの「元気な中小企業」の取材でも断られています。

(以下次葉)

コロナの次は何か？ボクはデジタルだと思います。菅首相は来年にもデジタル庁の新設を明言しています。ある測量会社の社長さんは、「いよいようちの時代がやって来た」と喜んでおられました。

こちらの会社はレーザー測量で、コンクリートのひび割れも正確にスピーディーに測れます。でも、今までは近接目視で人間の目で測ることが義務付けられていました。これはアカンでしょう。

日本には、ハンコ行政をはじめまだまだアナログの世界がいっぱいあります。デジタル化は大企業だけのものではありません。中小企業だからやれるデジタル化はたくさんありそうです。

今までアナログで対応していたものをデジタル化しましょう。経営にも役立ちますし、メディアも喜びます。DXのネタを温めておいて下さい。

#### ポイント

- ・メディアの関心、コロナの次は？
- ・嫌な取材は断りましょう
- ・デジタルがニュースに

#### 【日本広報支援機構 事務局便り】

・次回「オンライン懇談会」は10/20(火)です。会員の皆さんと気楽に語り合う場です。奮ってご参加ください。お近くになりましたら、改めてご案内させていただきます。

・当社団のホームページに、過去の「広報NOW」のバックナンバーをすべて掲載しました。お時間ある時に覗いてみて下さい。URLは下記の通りです。

<https://www.jprso.com/>

以上、引き続きよろしく願いいたします。